

平成 24 年度 図書館モデル公開授業 研究実践校 札幌市立西岡小学校 第 3 学年の実践

国語と総合的な学習の時間で図書館を活用する

学習のねらい

- ・国語科の読書の楽しみを広める学習を、学校図書館、地域図書館、中央図書館と段階を踏んで行うことで、本の探し方、お気に入りの本の紹介の仕方を学ぶ。
- ・総合的な学習の時間の一環として、地域の公共施設利用の便利さやマナーを学ぶ。

主な学習活動



・西岡図書館での図書貸し出しを全員が行えるよう、事前に全員に図書貸出券を作った。そして、その図書貸出券が、様々な図書館で使えること、図書館でのマナーについても学ぶことができた。子ども達はお気に入りの本を借りることができて、大変満足した様子であった。



・また、本校近在の札幌大学の図書館も見学させていただいた。札幌大学の図書館は、中学生以上であれば、利用することもできるため、地域図書館の一つとして、児童・保護者に周知することが、読書活動推進に大きく寄与すると思われる。

・中央図書館では、西岡図書館での活動をもとに、本を探して借りる他、事前に学校で読み聞かせをした「じごくのそうべえ」のポップ作りをイラストレーターの方の指導で行った。中央図書館で学んだポップの作り方を生かして、中央図書館で借りた本に新たにポップを作った。子ども達が作ったポップは、中央図書館と西岡図書館に掲示された。友達が紹介する本というのは、子どもにとって大きな魅力があり、お互いのポップや紹介した本に興味を寄せていた。

授業の成果と課題

図書館モデル公開授業の学習で、イラストレーターの方にポップ作りを指導していただけたのが良かった。今回は、図書ボランティアの保護者も参加して子どもたちを指導して下さったので、非常に有意義であった。ただし、ポップ作りのポイントが、中学年には、多少抽象的であったので、事前・事後の授業時数から考えても高学年向けの企画かもしれない。この図書館モデル公開授業は地域図書館・中央図書館の利用を一貫で行うことができて、すばらしい成果をもたらしたと言える。